

滝沢市地域公共交通計画 (滝沢市地域公共交通網形成計画) の施策への取組み状況について



〈 第 1 8 回滝沢市地域公共交通会議 〉

令和 8 年 2 月 1 2 日 (木) ビッグルーフ滝沢 大ホール

滝 沢 市
都 市 政 策 課

滝沢市 営業係長

ちやんぼん



1 公共交通利用向上プロジェクト

〔施策1-2〕市内移動における利便性向上

②小さな交通需要に対応した交通サービスの検討



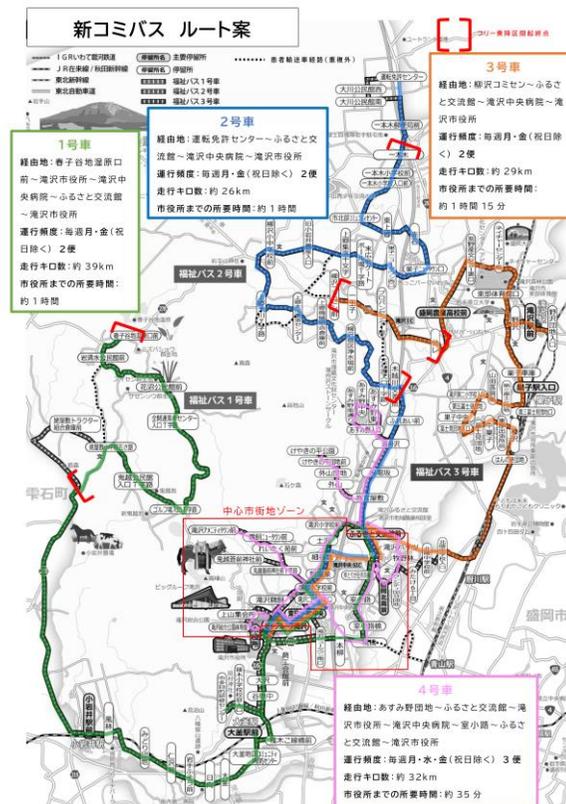
■市地域内交通の検討（福祉バス及び患者輸送車の再編）

福祉バスの課題

- ①利用者数の減少
- ②運行ルートが長い（最長約1時間半）
- ③福祉専用のバスとされている
- ④燃料高騰等の理由により、運行経費が増加
- ⑤運転士不足による運行維持が困難
- ⑥患者輸送車が同じルートを運行し非効率

新コミュニティバスへの再編

- ①福祉バスと患者輸送車を統合、限られた資源を効率的に運行する新コミバスに再編
- ②主要な病院、商業施設周辺（中心拠点商業地区など）を通るルートに変更、フリー乗降区間の導入や交通系ICカードの利用可により利用しやすく
- ③現在の3路線を4路線に分散し、乗車時間を短く
- ④バスの名称を変更し、覚えやすく呼びやすく
- ⑤燃料高騰等による運賃(200円)の変更を検討
- ⑥委託可能な交通事業者を検討



▲現在検討中の新コミバスルート案

**令和8年10月より
実証運行予定
詳細は議事(2)で報告します。**

1 公共交通利用向上プロジェクト

〔施策1-2〕市内移動における利便性向上

②小さな交通需要に対応した交通サービスの検討

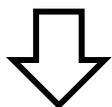


■ 小さな交通需要に対応した交通サービスの検討

滝沢市地域公共交通計画（平成29年策定）

基本目標 1：新市の「まちづくり」を支える新たな交通網の形成

基本目標 3：地域の特徴・特性に応じた交通サービスの提供



「公共交通の利便性向上プロジェクト」

施策1-2 市内移動における利便性向上

②小さな交通需要に対応した交通サービスの検討

小さな交通需要が分散する中山間地域において、誰でも安心して外出できる環境を確保するため、既存の交通資源を活用し、効率的な交通サービスの導入を検討する

➡柳沢・姥屋敷地区を対象に取り組みを進めてきた

滝沢市地域公共交通網形成計画



平成29年9月

滝沢市

1 公共交通利用向上プロジェクト

[施策 1 - 2] 市内移動における利便性向上

② 小さな交通需要に対応した交通サービスの検討



これまでの取り組み状況



令和4年度

・交通移動サービス実証実験

小需要地域における最大の移動需要を把握

利用者は限定的（各地区対象人口の2%）
利用者の移動が集中する頻度や時間帯があることから、
移動を効率化できる可能性あり → タクシーの相乗り

令和5年度

・地域住民との課題意識の共有

住民ワークショップの開催による住民意識の醸成
【柳沢地区】

住民代表者ヒアリングによる課題意識の共有
移動の課題に関するWebアンケート調査の実施

柳沢地区におけるアンケート結果

回答：33世帯 / 315世帯（約10%）

現状では困っていないが、将来的に移動に対する不安を抱えているとの意見あり

→ 5年後、10年後には高齢者率6割超え
将来にわたって考えていく必要がある

1 公共交通利用向上プロジェクト

〔施策 1 - 2〕市内移動における利便性向上

②小さな交通需要に対応した交通サービスの検討



▶ 令和 7 年度の取り組み状況（令和 6 年度から継続）

将来的に移動の課題はあるが、現時点では困っていない・・・

➡モビリティ・マネジメントの推進が必要

※モビリティ・マネジメントとは・・・

「過度に自動車に頼る状態」から「公共交通や徒歩などを含めた多様な交通手段を適度（＝かしこく）に利用する状態」



柳沢地区住民代表者と意見交換会を実施

既存の交通サービスの使い方を認知してもらうことが必要、地域のつながりが大事

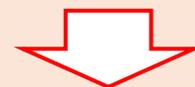
地域として課題を認識し、自ら行動することが大事であることを共有



▲住民代表者との意見交換（R6）

誰でも利用できる「福祉バス」を有効活用

地域みんなでお出かけする機会の創出



地域主体で「福祉バスツアー」を企画

1 公共交通利用向上プロジェクト

〔施策1-2〕市内移動における利便性向上

②小さな交通需要に対応した交通サービスの検討



▶ 柳沢地区の取り組み（福祉バスツアー）

昨年度に引き続き、今年度は2回開催し、延べ15名参加

- 第1回 6月9日（月）バラ園散策：滝沢総合公園（9名）
- 第2回 7月11日（金）スマホ使い方教室：ビッグルーフ滝沢（6名）

参加者からは・・・

「福祉バスに初めて乗った」、「免許返納も考えたい」

「乗降専用のバス停になっているのは不便」、「経由地が多く、移動時間が長い」

「市役所周辺のイベントに福祉バスで行きたいが、土日は走っていないので利用できない」などの意見あり

▲地域で作成したチラシ



▲福祉バス利用の様子



▲滝沢総合公園のバラ園を散策



▲ビッグルーフでスマホ使い方教室に参加

1 公共交通利用向上プロジェクト

〔施策1-2〕市内移動における利便性向上

②小さな交通需要に対応した交通サービスの検討



▶ 自治会長研修会「みんなでつくる地域の交通」の開催

市内の公共交通の現状と、地域の移動支援に関するニーズや課題を把握し、地域の問題として各自治会で議論を促し、さらには把握した課題に対して地域主体で移動支援に取り組むなどのきっかけとなることを目的として、自治会長研修を開催。講師として交通ジャーナリストの鈴木文彦氏をお招きし、公共交通の現状や全国で行われている取組の紹介等について、ご講演をいただいた。来年度は地域に入り、具体的な取組みの検討を進める予定としている。

開催日：令和8年1月29日（金）

参加者：市内自治会長32名



▲自治会長研修の様子



▲鈴木文彦氏による講演

2 公共交通の認知度向上プロジェクト

〔施策2-1〕情報発信による認知度向上

①公共交通の案内・情報発信ツールの作成



■「広報たきざわ」や「市ホームページ」による公共交通の情報発信

- ▶ 市民の公共交通への関心を高めるため、市の「広報たきざわ」を活用し、公共交通に関するトピックスを掲載(6月、10月、11月号)
- ▶ ホームページでは「写真でみるニュース」などにイベントの様子を掲載



小岩井駅を華やかに ふうりん保育園児らが植栽

ふうりん保育園の園児たちによる花壇の植栽が4月22日、小岩井駅前で行われました。当日は約30人の園児たちが駅前の花壇を囲み、手を土まみれにしながも楽しく花を植えました。この催しを企画した小岩井自治会の山本美喜子さんは「園児の皆さんのおかげで、駅が華やかになりうれしい。ぜひ市民の皆さんにも見てほしい」と話しました。

▲ 6月1日号 (小岩井駅活用)



▲ 11月1日号表紙 (小岩井ウオーク)



▲ 市HP「写真で見るニュース」
〔「チャグバス」装飾～馬コまでの1カ月運行〕

2 公共交通の認知度向上プロジェクト

〔施策2-1〕情報発信による認知度向上

①公共交通の案内・情報発信ツールの作成



■ 様々なイベントを通じての周知活動

▶ 滝祭（8月30日）、ふるさと交流館秋まつり（9月28日）でのPR活動、公共交通の利用状況や満足度を調査するためアンケート調査を実施。



▲イベント展示（PRブース）



▲アンケート調査



▲ケーシーエス、マクニカのご協力による自動運転バス体験会



▲JRバス東北のご協力による車両展示等



2 公共交通の認知度向上プロジェクト

[施策2-2] イベント実施等による認知度向上

① 児童・生徒等を対象とした乗り方教室等の開催



■ 鉄道安全教室の開催（東日本旅客鉄道(株)盛岡支社）

・ 通学のためJR田沢湖線（小岩井駅—大釜駅）を利用する篠木小学校の新1年生に対し、通学時の鉄道の安全利用を目的として、JR東日本盛岡支社主導のもと鉄道安全教室を実施。

日時：令和7年4月8日（木） 8時30分～10時15分まで

会場：篠木小学校体育館

参加者：篠木小学校 新1年生 51名



▲教室の様子



▲駅ホームでの注意事項、踏切通過体験、切符の買い方体験など



2 公共交通の認知度向上プロジェクト

[施策2-2] イベント実施等による認知度向上

① 児童・生徒等を対象とした乗り方教室等の開催



■ Out of KidZania in 滝沢 (I G Rいわて銀河鉄道(株)・ J Rバス東北(株))

- 小中学生を対象としたお仕事体験イベントOut of KidZania in 滝沢に I G Rいわて銀河鉄道及び J Rバス東北にご協力いただき、お仕事体験プログラムを実施した。

日時：令和8年1月31日（土）・2月1日（日）

会場：ビッググループ滝沢

参加者：参加申し込みのあった市内外の児童 56名



▲ J Rバス東北による運転士のお仕事体験



▲ IGRいわて銀河鉄道による駅員のお仕事体験



2 公共交通の認知度向上プロジェクト

〔施策2-2〕イベント実施等による認知度向上

②パッケージサービス・企画乗車券等の連携サービスの実施



■チャグバスの運行（岩手県北バス）

- 公共交通と密接な関係にある観光事業〔チャグチャグ馬コ〕とタイアップ。目に留まるデザインに装飾した「チャグバス」を期間限定で運行し、チャグチャグ馬コのPRと公共交通の利用促進を図る。今年度は川前保育園園児による装飾を実施。（H30～R7年度 計7回開催）



▲装飾の様子

「チャグバス」出発進行 川前保育園園児が装飾

滝沢 滝沢市奥字の川前保育園（運営明園長、園児41名）の年長15人は22日、6月14日に開催される「チャグチャグ馬コ」をPRする「チャグバス」を装飾した。

はんでんを模したTシャツを着た園児は、自分たちで描いた馬コの塗り絵や鈴のイラストなどを車内の窓に貼り付けた。

完成したバスは「出発進行、えいえいおー」のかけ声とともに発進。子どもたちは、うれしそうな表情で駆けつけた市の近地キヤクター「ちやぐぼん」に手を振った。

市川斗羽ちゃん（5）は、「上手に装飾されたバスを飾れよかった。家族でチャグチャグ馬コを見に行きたい」と笑顔を見せた。

滝沢市奥北バス（盛岡市）が公共交通の利用促進やイベント周知を目的に実施するバスは10日まで滝沢、盛岡、八幡平、岩手4市町の路線バス、滝沢市福祉バスとして運行する。

飾り付けたバスの様子を確認する園児

▲新聞での報道(岩手日報)

2 公共交通の認知度向上プロジェクト

[施策2-2] イベント実施等による認知度向上

② パッケージサービス・企画乗車券等の連携サービスの実施



■ 小岩井駅国登録有形文化財登録記念式典

- ▶ 小岩井駅本屋が令和7年8月6日に現役の駅舎としては日本初、また、滝沢市としても初の国登録有形文化財に登録されたことを記念して、令和7年10月4日に登録記念式典を開催した。



▲ 記念式典の様子

▲ 横断幕と出窓にシートを張り、利用者に向けて文化財登録のPRを行った

▲ 市及びJR東日本によるパネル展示、3Dプリンタで作成された模型の展示

2 公共交通の認知度向上プロジェクト

[施策2-2] イベント実施等による認知度向上

② パッケージサービス・企画乗車券等の連携サービスの実施



■ IBCラジオすっぴん土曜日小岩井ウォーク

- 交通結節点、観光拠点としての駅の重要性や必要性を感じていただくことや、沿線住民に駅に愛着をもってもらうことでマイレール意識を醸成し、さらなる鉄道利用の促進を図ることを目的に、小岩井駅の国登録有形文化財登録記念イベントとして、小岩井ウォークを実施。

県内外から参加した112名が、ガイドやIBCのリポーターとともに小岩井駅からまきば園まで約6kmの道のりを、かつて宮沢賢治が歩いたルートや小岩井農場の重要文化財を巡りながら歩いた。

イベントやラジオ放送の効果で今後の観光利用の増加が期待される。



▲小岩井ウォークの様子

3 公共交通の環境改善プロジェクト

〔施策3-1〕交通拠点整備による利便性向上

①主要拠点の交通環境の強化・待合い環境の改善



■小岩井駅活性化事業が全建賞受賞

- ▶ 小岩井駅周辺の交通環境整備事業が評価され、全日本建設技術協会の全建賞を受賞。駅舎の改修により、待合機能が改善し、交流スペースが確保されたことから、地域主催によるお祭りや様々な教室（寺子屋・スマホ教室など）が開催され、地域交流の場として活用されている。



▲多くの児童生徒が通学で小岩井駅を利用



▲地域主催のスマホ教室



▲全建賞表彰式の様子と受賞盾

4 多様な主体と連携・協働プロジェクト

[施策 4-1] 市民の公共交通に対する意識醸成

① 地域の公共交通を考える意見交換会等の開催



■ たきざわ自分ごと化会議

- ▶ 「高齢者の移動手段について～免許返納後の生活ってどうなる!?!～」をテーマに開催。第2回会議では公共交通の現状や地域内交通についての話題を提供し、福祉バス等のあり方について議論。第3回会議では北上市のNPO法人くちないの理事長である今野氏を招き、地域主体で行っている自家用有償運送の取組みを紹介いただいた。移動に関する問題に関心を持ち、自分ごととして積極的な議論が展開されており、最終回の第4回会議(R8.2.15)では今後の移動手段のあり方について意見をまとめ、市長に提案書を提出する予定。



▲自分ごと化会議の様子



▲NPO法人くちない 今野理事長の講演

※「たきざわ自分ごと化会議」とは…たきざわ魅力発信室で行っている無作為抽出の市民とさまざまなテーマについて、自分ごととして捉え、個人・地域・行政それぞれで何ができるかを考える場。令和6年度から各年度4回実施している。

4 多様な主体と連携・協働プロジェクト

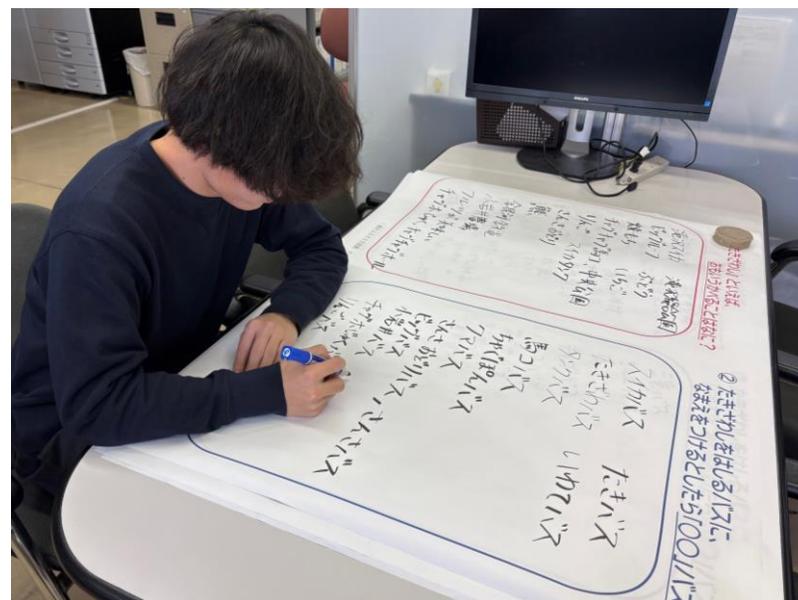
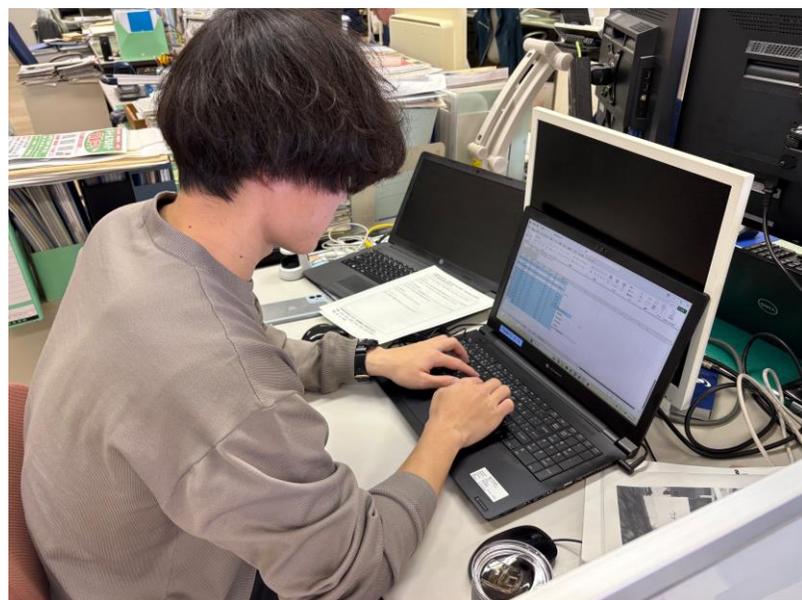
[施策4-2] 協働・連携による体制づくり

① 大学と連携した公共交通施策の展開



■ 会計年度職員（学生アルバイト）の雇用

- ▶ 会計年度職員として学生アルバイトを雇用。岩手大学の学生1名が、令和7年6月～令和8年3月まで都市政策課に配属されている。利用促進策の検討、公共交通に関する調査分析、直営作業による交通広場の維持管理業務など、日頃から公共交通を利用する機会が多い大学生の視点や意見がさまざまな施策を実施する力となっている。



▲ 会計年度職員（学生アルバイト）が業務に従事している様子

4 多様な主体と連携・協働プロジェクト

[施策 4-2] 協働・連携による体制づくり

②モビリティマネジメントの推進



■市職員の盛岡方面への出張における路線バスの利用促進

▶平成30年11月から全庁での試験運用を実施。令和元年11月から本格運用としている。

市職員の盛岡方面への出張における路線バスの利用促進を行い、職員自らが公共交通の利用機会を創出するとともに、日常的な公共交通の利用につなげる。

(市民に対しての公共交通利用の啓発、環境への負担軽減なども同時に図る)



▲職員の内部情報システムからICカード利用予約可能

延べ利用人数：31人（41人）

【令和6年11月から令和7年10月までの1年間の実績〔（ ）内は前年同期間〕】

4 多様な主体と連携・協働プロジェクト

[施策4-2] 協働・連携による体制づくり

③ 交通事業者のドライバー確保に向けた取り組みの実施



■ バス運転士確保支援金

- 市内に路線を有する路線バス事業者（岩手県交通・県北バス・JRバス東北）へ路線バス運転士確保支援金を給付することにより、路線バス運転士の雇用の促進及びバス路線の維持を図ることを目的として令和6年度より実施。

【支援実績】

新規採用

8名

市内の営業所採用 80万円/人

市内を運行する路線を有する市外営業所採用 40万円/人を支援

■ 陸上自衛隊岩手駐屯地でのバス運転士体験乗車

- バス運転士の確保のため、市と県北バス、陸上自衛隊岩手駐屯地と連携し、退職後の新たな就職先の候補となるよう、運転士体験及び説明会を開催。併せて今年度は新たに県北バス・岩手県交通・JRバス東北による個別の会社説明会も実施した。



▲会社説明会の様子



▲岩手駐屯地内の教習コースでのバス運転体験の様子





■ 交通事業者を対象とした支援金等（物価高騰対応等）

- 市内に乗降可能なバス停留所を有する**乗合バス事業者**、市内に本社又は営業所を有する**貸切バス事業者**、盛岡交通圏を営業区域とする**個人タクシーを含むタクシー事業者**に対して、支援金を給付。
- I G Rいわて銀河鉄道**に対して安定的な鉄道事業の運営を図るため、県及び沿線市町と共に令和5年度から令和9年度までに設備維持や車両本体の更新などに要する経費を支援。
- バス国庫補助路線の維持確保を目的として、沿線自治体との協調により運行に要する経費を支援。

【支援額（予定）】

乗合バス事業者（3社）	31,247千円
貸切バス事業者（5社）	
タクシー事業者（19社）	
個人タクシー事業者（74名）	
I G Rいわて銀河鉄道(株)	9,511千円
バス国庫補助路線の運行経費への支援	
合計	40,758千円



■ 通学定期券購入費助成 (物価高騰対応)

- ▶ 物価高騰による公共交通の運賃値上げの影響を受ける市民の学生に対して通学定期券の値上げ分を助成。

【助成内容】

- 令和7年4月1日以降に有効期限を迎える IGRいわて銀河鉄道、岩手県交通、岩手県北バスの通学定期券代のうち、運賃値上げ分を助成

【助成実績】

- 助成金額…1,208,600円
- 助成件数…568件
(令和8年1月末実績)

滝沢市 通学定期券購入費助成

物価高騰による公共交通運賃値上げの影響を受ける市民の学生へ
通学定期券値上げ分の助成を行います！

助成対象
令和7年4月1日以降に有効期限を迎える IGRいわて銀河鉄道 岩手県交通 岩手県北バス
上記の通学定期券代金のうち 運賃値上げ分を助成します
令和5年9月30日と比べて増額された額
※運賃の増額分は各事業者が定額で定額です。各事業者のホームページをご確認ください。
※運賃表、ICカードチャージなどは補助対象外です。

対象者 申請日時点で、以下のすべてを満たす方
①滝沢市に住所登録している学生(居住のみは対象外)
②IGR、岩手県交通、岩手県北バスの通学定期券を有効期限内まで使用した学生
※学校やその他の機関から助成を受けている場合は対象外となります。
※生活保護受給者や学費などが免除された場合に該当する場合は対象外となります。

申請方法 助成対象者が小中学生の場合、保護者が申請者となります。

必要書類
①滝沢市通学定期券購入費助成事業申請書(様式第1号)
②通学定期券使用証明書(様式第2号)

交通事業者毎に有効期限が終了した(継続の場合は終了買込)定期券を所持し、証明を受けてください

対応可能窓口	IGRいわて銀河鉄道	岩手県交通	岩手県北バス
※申請受付のみ 対象となります。	岩手県交通	滝沢営業所、盛岡駅前バス案内所、盛岡バスセンター乗車券売り場	盛岡営業所、盛岡駅前バス案内所、盛岡バスセンター乗車券売り場

③指定先金融機関の口座を確認できる書類(通帳又はアプリの画面等)の写し(申請者本人名義のものに限る)

申請窓口 滝沢市都市政策課(市役所本庁舎2階)または 東部出張所 ※毎週が曜日窓口定休日は受付できませんのでご注意ください。
(郵送の場合)〒020-0692 滝沢市中国路55番地 滝沢市都市政策課 宛 (郵送料は自己負担となります。)

申請締切(必着)

通学定期券の有効期間	申請期間	提出期限(必着)
令和7年4月~7月中に利用を終えたもの	令和7年4月~7月中に利用を終えたもの	令和7年 8月29日(金)
令和7年8月~11月中に利用を終えたもの	令和7年8月~11月中に利用を終えたもの	令和7年12月26日(金)
令和7年12月~令和8年3月中に利用を終えたもの	令和7年12月~令和8年3月中に利用を終えたもの	令和8年 3月31日(火)

※申請締切前に申請額に達した場合には、その時点で終了しますのでご注意ください。
※申請締切前終了する場合は、終了日のホームページで事前に知らせてみます。

転売、払い戻し目的等不正な申請とみなされた場合、助成金の返還を求められる場合があります。

助成の例

例1	滝沢駅~山形駅間のIGR定期券と 滝沢市~川崎町中央~盛岡駅間の岩手県交通定期券 それぞれ1か月分を利用	IGRの値上げ分 730円	それと合わせて 岩手県交通の値上げ分 470円	それぞれが補助対象 合計1,200円が口座振込
例2	小樽駅~盛岡駅間のJR定期券と 盛岡駅~岩手大平駅の岩手県交通定期券 それぞれ1か月分を利用	岩手県交通の値上げ分 2,970円	岩手県交通の値上げ分 2,970円	合計5,940円が口座振込 ※岩手県交通の値上げ分は1,980円です。

問い合わせ先 滝沢市 都市政策課 都市政策課 TEL:019-656-6543 (直通) 詳しい内容は
右側のQRコードから

▲通学定期購入費助成のチラシ

今後の施策への取組



■ 令和 8 年度に実施を予定している主な取組

- ▶ 盛岡都市圏地域公共交通計画へ移行し 3 市町により施策を進める
- ▶ 地域主体の地域内交通の取り組みの検討
- ▶ 新コミュニティバスの実証運行【令和 8 年 1 0 月運行開始予定】
- ▶ チャグバスの運行【令和 8 年 5 ～ 6 月予定】
- ▶ 自衛隊岩手地方協力本部との連携によるバス運転手確保の対策
- ▶ 小岩井ウォークの開催
- ▶ 通学定期乗車券助成事業による支援（物価高騰対応）
- ▶ 交通事業者支援金（物価高騰対応）
- ▶ バス運転士確保支援金（支援対象を「市内を運行するバス事業者」）
- ▶ イベント・広報・市HPによる公共交通の情報発信